

白井市こども発達センター 発達支援プログラム

発達支援の内容		領域	内容	頻度	対象児
グループ指導 (食事指導含む)		①②③ ④⑤	・グループは生活年齢を考慮しつつ、認知面の発達段階と行動のタイプ等で分けて支援を行います。	週1回～2回	0歳児～5歳児まで (未就学児)
			・年度毎に、認知面の発達段階と行動のタイプ等の見直しを行い、集団への参加の支援を行います。		
			・健康管理の方法や日常生活リズムを整える方法など、家庭での過ごし方についてアドバイスをします。		
			・着脱、排泄、食事等の身辺自立にかかわる基本的な生活習慣を段階付けながら支援します。		
			・少人数グループにより、集団活動の基礎(模倣行動・象徴遊び)を育てます。		
			・家庭内で具体的なかかわりや遊びを通して、子どもに対する理解を深められるように援助していきます。		
			・机上活動や運動活動などを個々の力に合わせて取り組むことで、物の扱い方や体の動かし方を支援します。		
			・物や人に関わる中で、その変化を理解したりやりとりの楽しさに気づき、自発的に関われるよう支援します。		
			・基本的な食事習慣の獲得(食事の偏りへの対応)や社会性(座って食べる習慣)を育てます。		
			・個々の状態に合わせて、食事の形態や食器具を工夫し使い方の支援をします。		
個別指導		③④⑤	・個々の発達状態を把握し、物事の理解や言葉とコミュニケーションの発達を支援します。	月1回～2回	0歳児～5歳児まで (未就学児)
			・言語の形成と活用や言語理解や言語表出の支援を行います。また読み書き能力の向上のための支援を行います。		
		①②	・個々の状態を把握し、運動・微細操作・行動の発達や日常生活動作の獲得を支援します。		
評価		心理発達検査	・個々の心理発達検査を用いて、児童の発達状態を把握します。	必要に応じて	0歳児～5歳児まで (未就学児)
			・検査の結果に基づいて児童の状態を説明し、家庭での対応についてアドバイスをします。		
		ST評価 (言語検査)	・言語検査等を用いて、言葉の発達、コミュニケーション能力等の状態を把握します。		
			・検査の結果に基づいて児童の状態を説明し、家庭での対応についてアドバイスをします。		
保育所等訪問支援			・児童が普段生活する施設等に支援員が訪問し、集団生活が適応できるよう環境調整や関わり方などについて、担当の先生へ助言等を行います。	半年に1回 から6回	0歳児から 小学6年生 まで

※領域 ①健康・生活 ②感覚・運動 ③認知・行動 ④言語・コミュニケーション ⑤人間関係・社会性